

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

固澁剂 澁精止遺剂 1

<p>きんさこせいがん 金鎖固精丸</p>	<p>補腎澁精</p>	<p>沙苑子・芡実・蓮鬚各 60g・酥炙竜骨・煨牡蠣各 30g 蓮子粉で丸にし 1日 1~2回 9g ずつ湯で服用する。上記の 1/5~1/10 量を蓮子 6g と水煎し服用してもよい。成薬を用いるのがよい。</p>
<p>医方集解</p>	<p>&lt;主治&gt; 腎虚不固 遺精、滑精、元気がない、腰や膝がだるく無力、耳鳴、舌質が淡、脈は細で無力などを呈す。 &lt;病機&gt; 腎精不足により精関の固摂が出来なくなった状態である。 房室不節などにより腎精が不足し、精関不固になるために遺精（睡眠中に精液を漏らす）、滑精（日中に無意識に精液を漏らす）が生じる。精が虚して腎府である腰や、腎竅である耳が濡養されないので、腰や膝がだるく無力、耳鳴がみられる。精から気を化生できないので、元気がない。舌質が淡、脈が細で無力は、精虚を表わす。 &lt;方意&gt; 補腎と固腎澁精を併用する。 補腎澁精の沙苑子が主薬で、補腎澁精・益気寧心の芡実・蓮子が補佐する。更に、収斂固澁の蓮鬚・酥炙竜骨・煨牡蠣で固精する。全体で固腎澁精・補腎に働くが、主体は固澁である。 &lt;参考&gt; 心肝火旺や、下焦湿熱による遺精には禁忌である。</p>	
<p>すいりくにせんたん 水陸二仙丹</p>	<p>補腎澁精</p>	<p>芡実・金桜子各等分 金桜子を煎熬し、芡実の粉末と混和して丸にし、1日 2回 9g ずつ服用する。</p>
<p>洪氏集驗方</p>		<p>主治は、腎虚不摂の遺精、白濁（精液尿）、帯下。 本方（水陸二仙丹）は補腎澁精の芡実・金桜子からなり、金鎖固精丸より収澁の力は弱い。</p>